

第2750地区大会参加記

日本ロータリーの底力を実感させた地区大会

韓国・第3650地区ガバナーエレクト（2004-05年度） 尹商求 新漢湯 RC

ロータリークラブの活動に熱心な日本——その心臓部である東京・第2750地区の地区大会（4月20～21日）は、すべて

の面で立派で、素晴らしい祭典でした。3,000人余が集う熱気の中、各クラブが活動状況を広報し、活動への参加を呼びかける友愛の広場には33か所の展示コーナーが設置され、注目を集めました。

会場の隣の部屋では障害者が作ったパンを販売する一方、新世代（インターアクト、ローターアクト）の会員たちの環境事業を展示する催しもあり、また伝統の茶道による試飲のテーブルと米山奨学会、世界社会奉仕委員会の広報コーナーもありました。

初日4月20日（日曜日）の最初の本会議は、午後1時から私の所属する地区の李秉斗総裁による愛国歌（韓国の国歌）の斉唱で始まって、われわれ一行を感動させました。愛国家が一番先に歌われたのは、ちょうどRI会長代理として慶尚南道河東から姜順鉉パストガバナーがお見えになったからです。流暢な日本語で行った感動的な演説で日本のロータリアンたちを魅了した姜会長代理は、地区大会期間中ずっと素晴らしい歌で人気を集めた李秉斗ガバナー夫妻とともに、韓国と韓国のロータリークラブの広報のため尽力しましたが、その成果は大変大きかったので、われわれ一行の喜びは並大抵ではありませんでした。

本会議の焦点は、新世代と環境問題を結びつけた講演と討論でした。討論

ロータリー・コリアは、隣国・韓国のロータリー地域雑誌です。韓国のロータリーは日本のロータリーとの交流が盛んということもあり、日本の記事が時々掲載されます。韓国のロータリアンの視点で見た日本のロータリーとは、どのようなものなのでしょうか。ご紹介いたします。

では、インターアクトとローターアクトの顧問教師と地球環境保存委員長が司会を務め、環境問題についての各自のアプローチ方法と成功の事例を発表し、質疑応答の方式で進行了ました。

最もうらやましかったのは、第2750地区で選抜された米山奨学生81人が舞台の上にずらりと並び立った光景が、日本のロータリーの奨学財団への熱い貢献を実感させた点でありました。多数の申込者の中から厳選された奨学生たちは、中国から30人、次に韓国から25人で計7か国の出身者。韓国のロータリー奨学文化財団と似ていますが、米山奨学会が多くの奨学金をアジア圏の留学生たちに支給しているのはよい手本に思われました。

また、14人の青少年交換学生たちが異なる国から来ていて、14人の学生を長期間の交換留学で海外に送っているということもうらやましく思いました。私の地区でも来年3人の学生をアメリカに送り、2人を受け入れることになっているので、参考になることと思われま

す。2日目の4月21日は、月曜日の朝であるにもかかわらず、第2本会議では3,000余りの席がいっぱいにな

るなど、その活動の底力にわれわれ一同は圧倒されてしまいました。第2750地区は、東京だけでなく、サイパンとグアムの南太平

洋の2か国が含まれていて、その国歌の演奏だけでもしばらく時間をかけ、それが珍しく、興味深いものでした。入場の際、89のクラブが、バナーで舞台の上に第2750の数字を作ってみせる演出も珍しいことでした。また、昼食はシーフードカレーで簡単に済ますようにしたことも賢く思われました。

そのときの第2750地区ガバナー、松崎勝一氏は、韓国に対して格別に親しみを持っていて、ユーモアと情熱を備えている素晴らしいロータリアンでした。その他にも、数人のパストガバナーやガバナーエレクトの真心のこもったもてなしに感謝しています。

李秉斗パストガバナー夫妻と閔丙峻パストガバナー夫妻、そして私ども夫婦が期待を胸に出席した第2750地区大会は、学んだことやたくさんの思い出とともに、記憶にずっと残ることと思います。



右端が尹ガバナーエレクト、中央が姜RI会長代理、左端が松崎ガバナー